

公開
セミナー

埋もれた写真を掘り おこす

データベースを用いた整理術の開発と応用



撮影者：①梅棹 忠夫 ②飯田 卓 ③石毛 直道

2020年5月17日(日)
13:30～17:00(13:00開場)

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止することがあります。
ホームページで最新の情報をご確認ください。

—国立情報学研究所—

感染拡大防止のため、
オンライン開催に変更しました。
最新情報はウェブサイトをご覧ください。

定員

100名 / 要事前申込・先着順 / 入場無料

申込先

heritage@minpaku.ac.jp

※申し込みメールの本文には、お名前とご所属先を明記してください。

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

個人が所蔵する写真や画像の点数は、年を追うにつれて等比級数的に増えつづけているといわれています。そしてその多くが、人生の終わりとともに散逸・消失しています。国立民族学博物館を中心とする「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」プロジェクト（略称 DiPLAS）では、2016年に活動を開始して以来、写真や動画などの画像資料をデジタル化・共有化するための技術的な支援をおこなってきました。この公開セミナーでは、支援をつうじて改良を重ねながらほぼ完成したかたちに近づいたデータベースを紹介します。

講演では、研究活動の一環として写真資料の整理にたずさわってきた研究者が整理の動機や社会的意義を紹介するとともに、その支援をおこなっている研究者がデータベース構築の足りを紹介します。後に続くワークショップでは、じっさいに参加者がデータベースを操作する時間をとります。その場で出た意見は、今後の支援に役立てる予定です。

研究支援代表者 **吉田 憲司** (国立民族学博物館・館長)

DiPLAS プロジェクト とはなにか？

この事業の目的は、現在進行中の科学研究費補助金（科研費）プロジェクトを対象とし、過去に蓄積された写真資料のデジタル化・データベース化を技術的に支援することで研究の進展を促すことにあります。この事業を通じて、国内外での学術調査に関わる写真資料を集積した「地域研究画像デジタルライブラリ（略称 DiPLAS）」を構築し、地域研究のさらなる発展に資するプラットフォームとして整備します。

- 13:00 開場
- 13:30～13:40 開会のご挨拶
吉田憲司 (国立民族学博物館館長、DiPLAS 研究支援代表者)
- 13:40～14:20 **講演 ①** 「山口修写真コレクションに見る楽器の素材と製作技術の持続と変化」
小西潤子 (沖縄県立芸術大学教授、DiPLAS 支援事業応募者)
- 14:20～14:50 **講演 ②** 「データベースと編集機能を用いた写真整理の支援」
丸川雄三 (国立民族学博物館准教授、DiPLAS 研究支援分担者)
- 14:50～15:10 休憩と配置換え
- 15:10～16:20 **ワークショップ ①**
…………… データベースのデモンストレーション
- 16:20～16:50 **ワークショップ ②**
…………… 討論と総評
- 16:50～17:00 閉会のご挨拶



今回の公開セミナーについては、「地域研究画像デジタルライブラリ」ホームページに、さらに詳しい内容を記載しています。以下のホームページもご確認ください。

<http://diplas.jp/event.html>

会場へのアクセス

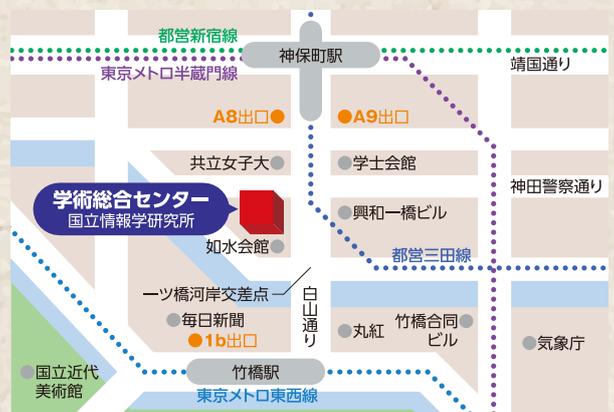
国立情報学研究所

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 12 階

- ◆ 東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 (A8・A9 出口) 徒歩 4 分
- ◆ 東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口) 徒歩 4 分

お問い合わせ先

国立民族学博物館 研究協力係 TEL : 06-6878-8209
FAX : 06-6878-8479



主催：科学研究費助成事業 新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』
「地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化」（支援機能：地域研究画像デジタルライブラリ（略称 DiPLAS））、課題番号：16H06281、中核機関：国立民族学博物館
共催：国立民族学博物館
協力：国立情報学研究所、地域研究コンソーシアム